

# 文化

竹取物語は、わが国の古典文学の中で、子供たちにも最も親しまれている物語の一つであります。その概略を次に示します。

今は昔、竹取の翁(おきな)と呼ばれるお爺(じい)さんが、山に竹を切りに行き光り輝く竹を見つけた。竹の中をぞくと3寸ばかりの美しい娘がいたので、お爺さんはその娘を家に連れて帰り育てることにした。やがて娘は美しく成長し、「なよ竹のかぐや姫」と名付けられた。かぐや姫の美しさは、周囲に広まり男たちが毎日のようにのぞきにきた。噂(うわさ)を聞きつけた5人の貴公子も求婚に訪れるが、かぐや姫は無理難題を言って求婚を断る。この噂は帝(みかど)の耳にも届き、帝も求婚にやってくるが断った。

その夜12時、空が真昼のように明るくなり、雲に乗った天人たちが地上に降りて来る。兵士たちの応戦はむなしく、かたことになり、お爺さんか、と考えたとき、それは、その深い信仰の境地から数々の歌を残されま

## かぐや姫の置き土産

### 死なない永遠のいのち

江角 弘道

かぐや姫は、月夜の都へ帰っていきまし。それはお爺さんにもある「不死の薬」とは何

最も近い山で燃やすよう命じた。この山は後に「ふじの山」と名付土山(ふじの山)と名付けられる。お爺さん、月手(つきで)の届かない月の世界の住人になっていきます。かぐや姫の置き土産で、高弟である田中木又師

(空外記念館理事長、島根県立大短期大学部名誉教授)